

地理歴史科（世界史探究） 学習指導案

- 1 履修単位数 3単位
2 実施日時 令和5年11月 日（ ）
3 学 級 ホームルーム（ 名）
4 使用教科書 新詳世界史探究（帝国書院）
5 単 元 名 イスラーム世界の形成と拡大
6 単元設定の理由

<生徒観>

本学級の生徒は「イスラーム」の特徴を、中学校での学習レベルで把握しており、メディアによく取り上げられるイスラーム関連の現代知識についてもある程度もっている。ただし、生徒が「イスラーム」という言葉から想起する知識は画一的であり、生徒の認識に多様性があるとは言えない。地域的な言及は「中東」に偏り、それ以外の地域名はほぼなく、地元性もない。これは、生徒にとってイスラームに関する知識は、あくまで教科書とメディアから得られるものであり、実体験としてイスラームについて考える機会がほぼないことに由来すると考えられる。現実問題として、本校の教育課程の中で「イスラーム世界」の多様性を肌感覚として教えることは極めて難しい。「イスラーム世界」という世界認識が誰にとっても共通のものであり、その「イスラーム世界」には同質な人々が暮らしているという「常識」を疑うことの価値を生徒に問う必要がある。

<教材観>

高等学校地理歴史科教育には、「イスラーム世界」を学習する際に3点の課題が挙げられる。第一に、多くの生徒にとって「異質で遠い何か」であり、教室で学習する以外に知識を得たり考察を深めたりする機会が乏しいため画一的な理解になりやすい。第二に、「イスラーム世界」という概念そのものが19世紀ヨーロッパによる産物であり、この概念を評価するためには19世紀ヨーロッパ知識人の視点バイアスを十分考慮しなければならないが、それを行う機会はほぼない。ゆえに、「異質で遠い」がゆえに、それ以外に見る方法がない。第三に、現代社会において関心が高まっているがゆえに、様々な誤解を孕みやすく、メディアや世論に対するうえで批判的思考力の育成が重要かつ急務である。また、旧学習指導要領が「イスラーム世界」と構成されているように、他世界よりも宗教的特徴が強調される傾向があった。指導においては、「他地域よりも宗教的」という理解で終わらせないよう留意したい。そのためにも歴史的リテラシーを働かせて、教科書の記述を批判的に考察し、かつ時空間を拡大して、他地域・他時代の世界との共通性を大掴みに捉えさせる工夫が必要である。

<指導観>

本単元においては、「イスラーム世界」の「核」と「多様性」に着目しながら、ウマイヤ朝やアッバース朝が「アラブ帝国」「イスラーム帝国」と教科書内で表現される理由について考察し、さらに、その表現の妥当性について批判的に考察することを中心に捉える。そのため、教科書や資料集を中心に、諸資料（史料）を歴史的な見方・考え方を働かせて読み解き、様々な視点から吟味することが必要となる。1人1台端末を活用しつつ、協働学習を効果的に取り入れながら、生徒同士の対話・討論によって考察の深化を促す。

7 単元の目標

- イスラーム世界の形成と拡大を基に、西アジアと地中海周辺の歴史的特質に関する知識を身に付け、イスラーム世界が持つ多様性を理解する。（知識）
- イスラーム世界の形成と拡大の歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、イスラーム世界を多面的・多角的に考察し、適切に表現する。（思考）
- イスラーム世界の歴史的特質の形成について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする態度を養う。（態度）

単元の基軸となる問い（EQ） イスラーム世界とはどのようなものだろうか。

8 単元の評価規準

| 知識・技能（知） | 思考・判断・表現（思） | 主体的に学習に取り組む態度（態） |
|---|--|--|
| イスラーム世界の形成と拡大を基に西アジアと地中海周辺の歴史的特質に関する知識を身に付け、イスラーム世界が持つ多様性を理解している。 | イスラーム世界の形成と拡大の歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、諸資料を適切かつ効果的に活用し、比較したり関連付けたりして読み解き、イスラーム世界を多面的・多角的に考察し、適切に表現している。 | イスラーム世界の歴史的特質の形成について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。 |

9 指導と評価の計画 イスラーム世界の形成と拡大 全8時間

- 第一次 イスラームの誕生・・・1時間【●知、態●】
- 第二次 「大征服」とウマイヤ朝・・・2時間【○知、●○思】（本時2 / 2）
- 第三次 アッバース朝・・・1時間【●知】
- 第四次 イスラーム世界の拡大・・・2時間【○知、態●】
- 第五次 イスラームネットワークと文化・・・1時間【○思】
- 第六次 イスラーム世界とは何か・・・1時間【○態】

単元の指導計画（○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」）

| 時程 | 学習活動 | 評価の観点 | | | 評価規準等 |
|-------------------|---|-------|---|---|--|
| | | 知 | 思 | 態 | |
| 第一次 1時間 | 【基軸となる問い（EQ）】 イスラーム世界とはどのようなものだろうか。 | | | | |
| | 【第一次の問い】 ウンマの画期性はどこにあったのだろうか。ウンマはどのように維持されたのだろうか。 | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・アラビア半島に現れた新しい社会の仕組みについて、従来の部族社会と比較しながらワークシートにまとめる。 ・イスラーム世界について、疑問に思ったことや、追究したいことを見出してワークシートに記入する。 | ● | | | (評価資料) ワークシート ●アラビア半島に、イスラームの教義に基づいた仕組みが形成されたことを理解している。 ●自分の考えをまとめ、学習の見通しを立て、学習を通して明らかにしようとしている。 |
| 第二次 2時間 1/2 | 【第二次の問い】 ウマイヤ朝を「アラブ帝国」と表現するのは、誰の視点に基づくものだろうか。この国を他の視点から表現するならば、どのような表現が適当だろうか。 | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・正統カリフ時代からウマイヤ朝までのイスラーム共同体の拡大と変容について概要を理解する。 | ○ | | | (評価資料) ワークシート、発表 MetaMoJi Classroom 作成シート ○正統カリフ時代とウマイヤ朝のそれぞれの時代の特徴を理解している。 |
| ★ 本時 2/2 | 【本時の問い（MQ）】 ウマイヤ朝は「なに帝国」？ | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ウマイヤ朝に関する資料を様々な視点から読み解き、それらを踏まえたうえで、同王朝を「なに帝国」と表現するか考察し、発表する。 ・発表を聞き、「アラブ帝国」の名称について批判的に考察し、あらためてウマイヤ朝を「なに帝国」と表現するか考察する。 | ● | | | ●諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、ウマイヤ朝について考察し、表現している。(思①) ○諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、ウマイヤ朝について考察し、表現している。(思②) |
| 第三次 1時間 | 【第三次の問い】 なぜウマイヤ朝ではなくアッバース朝が「イスラーム帝国」と呼ばれるのか。その表現はどの点において適当であり、どの点において不適当だろうか。 | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ウマイヤ朝及び既習の帝国との比較や資料を読み解き、ワークシートに記入する。 | ● | | | (評価資料) ワークシート ●「アッバース革命」の画期的要素と限界について理解している。 |

| | | | |
|------------|---|---|--|
| 第四次 2時間 | <p>【第四次の問い】 イスラームは、各地でどのように受け入れられたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各地におけるイスラームの受容の仕方について2つの地域を選び、その共通点や差異をワークシートに記入する。 イスラーム世界について、現時点における自分の考えをワークシートに記入する。 | ○ | <p>(評価資料) ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ○権力が分散するイスラーム世界において、各地で発生したイスラーム諸勢力の特徴を理解している。 ●イスラーム世界についての新たな視点や、理解の深まりがみられ、次の学習につなげようとしている。 |
| 第五次 1時間 | <p>【第五次の問い】 「イスラーム世界」を一つに結び付けたものは何だろう。その画期的な点はどこだろうか。また、その限界はどこにあるのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科書及び資料集を活用し、8～9世紀の陸上・海上における広域ネットワークに関する情報を読み取り、イスラーム=ネットワークの成立要素を考察する。 | ○ | <p>(評価資料) ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ○イスラーム=ネットワークが成立する要素を、文化的・法的側面から考察している。 |
| 第六次 1時間 | <p>【第六次の問い】 「イスラーム世界」とはどのような世界だろう。私たちが「イスラーム世界」という言葉を使うとき、どのようなことに注意しなければならないのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を踏まえ、「イスラーム世界」がどのような世界であるかワークシートに記入し、発表する。 | ○ | <p>(評価資料) ワークシート、発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習を振り返るとともに、イスラーム世界の歴史的特質の形成について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。 |

10 本時の指導目標

資料の読み取りを基に、「アラブ帝国（ウマイヤ朝）」という表現を様々な立場から批判的に検討し、ウマイヤ朝について考察する。

11 本時の展開

| 時間 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 学習活動における具体的評価規準 | 評価方法 |
|----------------|---|---|--|--|
| 導入 5分 | <p>【基軸となる問い (EQ)】 イスラーム世界とはどのようなものだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時の復習をしたうえで、本時の問いを確認する。 <p>【本時の問い (MQ)】 ウマイヤ朝は「なに帝国」？</p> | | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> 前時のスライド資料から、「歴史の基本公式」を再度提示する。 | <p>【歴史の基本公式】教科書に用いられる用語には史料用語と研究者の用語が存在するが、どちらか一方に統一することは不可能なので、どれを用いるかに執筆者の歴史観が反映する。(『市民のための歴史学—テーマ・考え方・歴史像—』2022年)</p> | |
| 展開 ① 25分 | <ul style="list-style-type: none"> グループ単位で配布された資料を手分けし、個人で読み解く。 資料♣：地理的視点 資料♥：被支配者視点 資料♠：シーア派視点 | <ul style="list-style-type: none"> 配布資料は、グループ学習ページに設定しておく。 悩んでいる生徒に対しては、適宜ヒントを提示する。 | <ul style="list-style-type: none"> 諸資料を比較したり関 | <p>MetaMoJi Classroom</p> <ul style="list-style-type: none"> MetaMoJi Class |

| | | | | |
|------------|--|---|---|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> 担当箇所をグループで共有し、ウマイヤ朝を「なに帝国」と表現するか考察し、シートに入力する。 | <ul style="list-style-type: none"> グループで考えた表現と、その根拠も入力させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 連付けたりして読み解き、ウマイヤ朝について考察し、表現している。【思考・判断・表現①】 | <ul style="list-style-type: none"> Room 作成シート 発表 |
| 展開② 5分 | <ul style="list-style-type: none"> ウマイヤ朝の新たな表現を、根拠とともにグループ毎に発表する。(全体共有) | <ul style="list-style-type: none"> 発表グループの学習レイヤーを、他の生徒の端末画面に表示する。 全体の意見をまとめないようにする。 | | |
| 展開③ 10分 | <ul style="list-style-type: none"> MQに対する考察をワークシートに記入する。 | <ul style="list-style-type: none"> 本時の学習活動を踏まえて、自分の考えを表現させる。 | <ul style="list-style-type: none"> 諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、ウマイヤ朝について考察し、表現している。【思考・判断・表現②】 | <ul style="list-style-type: none"> ワークシート |
| まとめ 5分 | <ul style="list-style-type: none"> 本時のまとめを聞き、自己評価と追加質問に対する回答に取り組む。(Microsoft Forms アンケート) | <ul style="list-style-type: none"> 歴史的事象への名付けは、「誰かの」価値判断に基づいて行われることを強調する。 | <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">Microsoft Forms</div> | |

12 評価の目安と目標実現のための手立て

【思考・判断・表現①】(グループでの思考)

| | | |
|---|--------------------|---|
| A | 十分満足できる | 諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、ウマイヤ朝について多面的・多角的に考察し、表現することができた。 |
| B | おおむね満足できる | 諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、ウマイヤ朝について考察し、表現することができた。 |
| C | Bを満たさない生徒への具体的な手立て | 資料(地理的視点・被支配者視点・シーア派視点)から導き出されるウマイヤ朝の情報を確認させ、それぞれの視点からの捉え方に気付かせる。 |

【思考・判断・表現②】(個人思考)

| | | |
|---|--------------------|---|
| A | 十分満足できる | 諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、ウマイヤ朝について多面的・多角的に考察し、表現することができた。 |
| B | おおむね満足できる | 諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、ウマイヤ朝について考察し、表現することができた。 |
| C | Bを満たさない生徒への具体的な手立て | ウマイヤ朝の、「アラブ的支配」以外の要素に着目させるとともに、教室内で共有された意見を参考にさせながら、自分の言葉で記入してもよいと助言する。 |